どうしてこうなった？

闇の翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
どうしてこうなった？

【Ｎコード】
Ｎ５５７０Ｚ

【作者名】
闇の翼

【あらすじ】
さて、神に転生させられて能力ももらった・・・うん、ここまではいい。だけどなんで能力がこれなんだ？
「始まりは破壊だ！我は何も生み出さない、恵まない、救わｎ（ｒｙ・・・」なんか変なこと言う紫色の羽が生えて目が４つある化け物、「俺は自分より弱えェ王を背中に乗せて走り回って一緒に切られるのは御免だぜ」なんか真っ白な黒崎一護、「写輪眼を持つ奴は皆殺しだ」九本の尻尾が生えた狐みたいなの。
・・・どうしてこうなった？

この小説は多重人格の主人公がてきとーに生きる小説です。
あと主人公最強系です。あとこの小説は作者の思いつきで始めました。
あといろいろなアニメや漫画などの原作キャラ崩壊が起こるので、嫌な方はUターンをお願いします。
後悔はしてる。反省もしている
※主人公の名前を変更しました。

プロローグ（前書き）

鬱の時にテキトーに書いた小説です。

暇つぶし程度に見てください。

プロローグ

「さて、お前には転生してもらおう。隈川（くまかわ）　雪（そそぎ）。」

真っ白の空間で無駄にイケメンの青年がそんなことを言ってきた

おそらく神かなんかだろう。

「はぁ・・・」

俺にはそう返事をするしかできなかった。

「ん？なんだ？もっとよろこばんのか？」

いや、そんなこと言われても・・・

「前に転生させたやつなんて「テンプレキタコレ！」とか叫んでたぞ」

はぁ、そうですか・・・

正直どうでもいいです。

「で、なぜ転生させてくれるのですか」

別に自分は前世で酷い人生を送っていないし、ちょっとした事故で死んだんだし・・・

「いや、特に理由はない」

・・・・・は？

じゃあ、なに？暇だから転生させるとか？

「まぁそうだな」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

はぁ、こういうのって文句言ったたって強制なんだろ

「よくわかってるじゃないか」

いや、そんなに偉そうに言わないで下さいよ・・・

で、能力とかはもらえるんですか？

「あぁ、もちろん」

「ただし、ランダムでだがな」

ありゃ、そこは意外だな。

「ほかの転生者は文句を言ってきたやつもいたが、「転生させない☆ＺＯ」って言ったら黙ったわ」

・・・・・うぇ～

うぜぇ、そしてきめぇ

「まぁ、男だったらそういう反応だな。我も自分で言って気持ち悪かったし・・・」

じゃあなぜやったし

てか自分のこと我とか言うのね・・・

「当たり前だ、我は神なのだからな」

・・・・・予想はしてたが、やはり神だったか。

最初見たときは天使の羽をつけたコスプレイヤーかと思っていたが・・・

まぁ転生させるって言った瞬間に神だと思ったが・・・

「失礼な奴だな、転生させない☆ＺＯ」

・・・・・うぇ～

うぜぇ、そしてきめぇ

でも、転生させないのはいいな。このまま成仏したい。

「だが断る」

それはお前が言うのか・・・

「だってお前の反応がつまらないからなぁ～」

どうでもいい

「もっとさぁ～、「神様お願いします、転生させてください！」って言えないのぉ～」

無理矢理転生させようとして何を言う

「てか、無理矢理転生って読みにくいな」

どうでもいい

「ま、とにかくいやがらｓ・・・じゃなくて我の善意によって転生させてやる」

いま本音言いかけただろ

「というわけで、転生の説明するぞ」

ごまかすな

・・・はぁ～。もう、疲れたよパト○ッシュ・・・。

「能力は全部で３つ！その能力は我にもわからん！」

なら安心だ。お前に能力を決められるのは嫌だ。

「んで、その能力は我の力も超えることがあるから注意しろよ」

ちょｗｗｗおまっｗｗｗｗ

ｗｋｔｋが止まらない！

これで神に復讐だ！これでかつる！

「まぁ、我は（自称）最強の神だからな」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・自称（笑）

「殺すぞ」

もう死んでます。

「しまった！？」

アホだ。

「くっ！・・・あとほかにも転生者がいるぞ」

・・・・戦闘になったら勝てる気がしないので、関わらないようにしよう。

「あと転生先は　　だ」

うん？なんだって？

「いや、作者が番外編でいろいろな世界に行かせるみたいだから、書かないらしい」

ちょwwwメタ発言wwwww

「まぁ、この小説じゃあ魔法少女リリカルなのはの世界だがな」

だからメタ発言はやめい

てか魔法少女リリカルなのはってなんぞ？

「あぁ・・・そういやお前はあのアニメは見てないんだったな・・・」

なぜ知ってるし

「神だから」

なるほど

「んじゃあ能力を授けるぞ・・・・・ポポポポーン！」

なんだよそのＣＭ的な効果音

「なんとなくだ、気にするな」

そうか・・・

「あと言うことは・・・あ、そうだ！」

ん？

「転生って言ったけど、憑依したり、今の格好で転生することもあるからな」

・・・・・ゑ？なんだって？

「つまり次元移動みたいな感じだ・・・といったほうがわかりやすいか？」

「んじゃあ、逝ってこい」

字が違うと思うのは俺だけだろうか・・・

などと思ってたら俺の下に大きな穴が空いて・・・って

「えええええええええええええええええええええええええ！？」

俺はその穴に落ちて逝った。

「ククククッ・・・せいぜい楽しませろよ・・・転生者ども」

神が何か言っているような気がしたが気のせいだろう。

だがその時の神は邪悪な笑みを浮かべていたのは俺は知らなかった。

プロローグ（後書き）

暇つぶし程度に書いてるので、叩かれたらすぐにやめるつもりです。

1話　「始まりは破壊だ！」（前書き）

※タイトルと小説の内容はあまり関係ないです。

1話　「始まりは破壊だ！」

・・・・・ん？

あれっ？俺はいったい・・・

あぁ、そうか。転生したんだったな

（「正確には転生じゃなくて憑依だがな」）

ふ～ん、そうなのか～。

・・・・・って、痛ってぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！？

なんだこれ！？頭がかち割れそうだ！

（「頭がかち割れるわけないだろう」）

たとえだよ、たとえ！

てかマジ痛てぇ！あ、何かの記憶が・・・流れ込んでくる！

なんだこれ！？俺の記憶じゃねぇぞ！

（「それは憑依したやつの記憶だ」）

マジか！？

よくこんな記憶で自殺しなかったな。

（「いや、もう死んだ。だから憑依できたんだ」）

なるほど。

あ、やっと痛みも引いてきた・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・ゑ？

さっきから俺に話しかけていたのは誰？

俺は恐る恐る後ろを向く。すると・・・

（「気づくのが遅いぞ」）

（「やっと気づいたか」）

（「とっとと気づきやがれ」）

天井くらいまでの高さの９本の尻尾を持つ少し透けている狐みたいなやつと同じく透けている紫色の羽が生えて目が４つある化け物とまた同じく透けている白い目つきの悪い青年（ぶっちゃけ白黒の黒崎一護）がいた。

「ぎゃーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーっっっ！！！」

～しばらくお待ちください～

なるほど、こいつらからの説明を整理すると

こいつらは神が俺に与えた能力の一部だそうだ。

んで、狐の名前が九尾(きゅうび)

紫色の羽が生えて目が４つある化け物の名前はα(アルファ)

白い黒崎一護が虚(ホロウ)っていうらしい。

んでなんでお前ら体があるのよ？

（「知らん」）

九尾はわからんのか。

αや虚は？

（「さぁな」）

（「知らねぇ」）

そうか・・・

じゃあ、ほかの転生者もお前らのような奴がいるのかな？

（「知らん」）

そうか

んじゃあ、自分らの能力わかる？

（「ワシの力は前世で知っているだろう？」）

なぜ知ってるし。

まぁだいたいは・・・

（「細かいことはまた次回に話そう」）

次回って何ぞや？

まぁいいや

αは？

（「我の能力はすべてを解析し、それを解除する能力だ」）

つまり？

（「すべてを無に還すことができる」）

・・・えげつねー

（「というか九尾の力は知っていてなぜ我の力は知らない」

俺ってジャンプしか読んでないから。

ごめーんね☆

（「テラキモス」）

うっせ

次！

虚は？

（「俺は虚化と完全虚化だな」）

虚化か・・・・それも原作と同じ？

（「まぁ、細かいところは違うがほぼ一緒だな。」）

細かいところって？

（「説明するとだな・・・」）

～虚、説明中～

・・・・・なるほど。

虚化はただ、力が上がるだけ。

完全虚化は虚化より力が上がるが、理性を失う・・・か。

（「ちなみにお前が死んだら、自動で完全虚化して蘇生するから死なねぇように気を付けろ」）

マジかよ

あぶねーな、おい。

しかし・・・これってなんてチート？

ヤヴァクないか？

・・・・・ま、なんとかなるか

（「ククククッ・・・おもしろいことになりそうだ」）

そだな～

こうして俺の転生生活が始まった・・・

（「始まりは破壊だ！」）

「何言ってんだα」

（「ワシも早く暴れたいぞ」）

「なにそれ怖い」

（「なんなんだろうな？このメンバーは。」）

「俺が聞きたい」

1話　「始まりは破壊だ！」（後書き）

記憶が流れてくるって設定は無理があるかなぁ～・・・

2話　どうしよう・・・？

さて、前の続きだが・・・

ココアどこだ？

（「ここは、お前の前の体の持ち主の家だ。」）

なるほど

（「てめぇには記憶があるじゃねぇか」）

ん？・・・・・おぉ！本当だ！すっかり忘れてた！

（「てめぇそんなんで、大丈夫か？」）

大丈夫だ、問題ない。（キリッ！

てか記憶を探ってたら親が1週間前から出て行ってから帰ってきてないね。

（「「「・・・・・・・・・・・・」」」）

今までずっと家にいたのに。

まさか！・・・・・捨てられた・・・・・のか？

（「「「・・・・・・・・・・・・」」」）

・・・そうか・・・・・・

しかももっと思い出してみると、虐待までされてる。

前の体の持ち主は虐待で体が弱ってたのと捨てられて放置されたので餓死したんだな。

・・・・・なんて思ってたら

ぐぎゅるるるるるるるるるるるる～・・・

・・・腹が減った。

（「もしかすると、このままだとお前も餓死するんじゃないか？」）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤヴァイって！

転生してまたすぐに死ぬのか！？

（「いいから、食い物か金目のものを探せ！」）

おぉ！そうだな！

～零、探し中～

・・・・・食い物・・・なし。金目の物・・・５０４円。

ゑ？これでどうやって生きろと？

（「とにかく、それで食い物を買いに行け！」）

おぉっとそうだな。マジで死にそうだ。

（「死んだら、完全虚化だけどな」）

・・・・・・・・・・・・・・・ヤヴァくね？

（「ヤバイな」）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

～雪、移動中～

近くにあったスーパーでう◯い棒を買った。

うま◯棒・・・・・うめぇ

空腹だからかすごくうまかった。

特にコーンポタージュ味がうまかった。

（「作者が好きだからな」）

ちょｗｗメタ発言ｗｗｗｗｗ

（「どうでもいいわ、そんなもん」）

いやいや、だめだろう！

出番が減るかもしれないぞ！

（「なん・・・・だと・・・・・・！？」）

これからは気をつけろよ。

・・・さて、これからどうするか考えるか・・・

てかお前ら、姿は大丈夫なのか？誰かに見られたらヤヴァくないか？

（「一般人に俺たちが見えるわけねぇだろ」）

（「そうだ。なにせワシらは遊戯王の名もなきファラオのような存在だからな。」）

へぇ～

てか九尾よ、なぜ遊戯王を知ってるし。

（「ジャンプつながりだ」）

へぇ～

あと九尾とα。なんかでかくなってない？

（「ワシはでかすぎるから、お前が入っている建物の大きさによって変わる。今は外だから大きさは原作通りだ」）

（「我も同じだ」）

へぇ～

てかさっきから俺ってへぇ～しか言ってないな。

などと雑談しながら家に帰ろうとしたら

「てめぇ、どこ見て歩いていやがる！」

誰かの肩が俺に当たり、そう叫んできた。

・・・ん？

「おいガキ。てめぇ、当たっといて謝罪もねぇのか」

なんか二人組の不良っぽい人たちが絡んできた。

なんで＜ぽい＞のかはこの不良が全然怖くないからだ。

まぁ、前世でもそんなに怖いと思ったことはないが・・・・・なんでだ？

（「それはワシらがいるからだ」）

というと？

（「ワシらのほうが強いのに、なぜこんなザコにビビらなければならん」）

なるほど。

九尾たちがいるから怖くないのか。

つまりいまこの不良たちは不良（笑）たちなのか。

「シカとしてんじゃねぇぞ！このクソガキ！」

・・・すげー口が悪いな。

なんて思ってたら、いきなり不良（笑）たちが殴り掛かってきた。

（「ふん。そうだ雪。ワシの力を試してみるがいい」）

ん？

おぉー！いいねそれ！

試すにはちょうどいい！

で、どうやって使うんだ？

（「まず、チャクラをワシが送る。それを術にして放つのだが・・・今は術を教えている暇がない」）

確かにな。

どうする？

（「今回は身体強化に使う」）

おぉ！そんなことができるのか！

（「ではチャクラを送るぞ」）

～5秒後～

俺の目の前にはボロ雑巾のようになった不良（笑）が二名。

「（よ、よえぇ～～～）」

（「いや、おめぇが強すぎんだよ」）

マジでか。

まぁいいや・・・それよりも～♪

（「何をしている？」）

ん～？

敵を倒したら、報酬がもらえるのが当たり前だろ～♪

そういって俺は不良（笑）たちの財布を探る。

合計で１０万５２６４円手に入った。

「すげ～！大量じゃん！」

金持ちなのか？

いや、たぶんカツアゲしてきたんだろな～

まぁどっちでも俺がもらうけど。

（「どっちが悪党かわからん」）

俺の前では悪も正義になるのさ。

まぁ、少し罪悪感があるので、１円だけ残しといた。

（「だから４円なんて中途半端な値段だったのか・・・」）

虚が呆れたように言う。

１円だけ残してやっただけでも感謝してほしいくらいだ。

こうして俺は生活費をゲッツしたのである。

「今度からもこうやって金を稼いでいこう！」

・・・・・収入源も。

2話　どうしよう・・・？（後書き）

みなさんに聞きたいのですが、どれが誰のセリフかわかりますか？

一応、一人称は九尾が「ワシ」、αが「我」、虚が「俺」です。

もしどれが誰のセリフかわからなかったら言ってください。

リレー式？っていうんですかね？・・・それに変えます。

番外編　メリー・クリスマス！・・・・・なんて言うと思うか？（前書き）

これを読むと鬱になる可能性があるので、せっかくのクリスマスを台無しにされるのが嫌だっていう人は見ないでください。

番外編　メリー・クリスマス！・・・・・なんて言うと思うか？

さて、今日はクリスマス・イブなわけだが・・・

「？　クリスマスとはなんだ？」

九尾がそう聞いてきた。あ、ちなみに口寄せしてます。

たぶん、αも知らないんだろうなぁ～

虚は知ってそうだな。

黒崎一護の中にいた虚の記憶があるんだから、一護が見てきたものの記憶もあるだろ？

「いや、知らん」

・・・・・・・・・・・・ガッデム！

というわけでクリスマスパーチーを開こうと思います！

「どういうわけだ」

まぁまぁ、いいじゃないか。

やろうぜ～～～

「ふむ。こういうことはしたことがないから楽しみだ」

お！わかってるねぇ～α。

「・・・まぁ、いいか」

いいんだよ、虚

「・・・・・しかたがないな」

やっと認めたか、九尾よ。

「で、何を用意すればいいのだ？」

まず、ごちそうとケーキだな。

「金がない」

完

いやいや！？これで終わり！？

「だって金がないのにどうやってごちそうやケーキを用意する？」

「そもそも、クリスマスとは何をするものなのだ？」

え～と・・・誰かさんの誕生日を祝う・・・・・んだっけ？

そんな感じ。

「・・・くだらん。なぜ我らがそんな誰かもわからん虫けらの誕生日を祝わなければならん」

しかたがないだろ！日本じゃあそういう風習なんだから！

てかαよ、さっきまでノリノリだったじゃねぇか。

「虫けらの誕生日なんて聞いたら、やる気も失せるわ」

まぁ俺も誰かわからんヤツの誕生日なんて祝いたくないんだが・・・

「まぁ、とにかく！ごちそうとケーキ買うためにいつもの方法で金を手に入れるか」

「「「異議なし」」」

よし。んじゃあ行くか。

「グハッ！！！？？？」

おいおい、この程度でくたばってんじゃねぇよ。

今、俺の前に屍が3体。

そう、いつものように不良さんたち（笑）から金を巻き上げｒ・・・

もらうことにした。

俺が今日着ていた服は、真っ白な服。

αのおすすめだそうだ。

だが、今はその白い服が赤く染まっている。

そう。それはまさに、サンタクロースのように。

さて、みなさん。ご一緒に。

「痲裏（メリー）ー・苦裏素（クリスマス）魔素・・・」

番外編　メリー・クリスマス！・・・・・なんて言うと思うか？（後書き）

この小説を読んで、気分を害されても自己責任でお願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5570z/

どうしてこうなった？

2011年12月25日01時00分発行